

福島 未希さん (福岡県北九州市出身)
2017年度2次隊 青年海外協力隊
派遣国: モンゴル 職種: 理科教育
2019年1月27日(日) 中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

命の尊さ 幼少から自覚

サインバイノー? バクシャー(こんにちは、先生)

生徒からあいさつをされるとうれしい。広島市安佐南区の私立中高一貫校に所属する私は、青年海外協力隊の理科教育隊員としてモンゴルに派遣されている。

実はここは青年海外協力隊が派遣される国の中で最も寒い国で、冬は氷点下40度に達することもある。私の活動は、現地教員とのセミナーや授業を通し、身近な物を使ってできる実験を教員に紹介することだ。



羊の心臓の解剖実験をする子どもたち

実験の中でも驚いたのは「羊の心臓の解剖」。日本でも解剖実験は行うが、日本と異なり解剖を嫌がる生徒はあまりおらず、ナイフの使い方も巧みだ。

また日本では実験前に命の尊さを話すが、モンゴルでは話さない。「生徒は知っているから」との理由だ。市場に行くと、羊が丸々1頭売られている。遊牧民の家にお邪魔すると「ごちそうだ」と言って羊をさばいてくれる。緑があまり育たないこの地において、羊1頭がどれほどのごちそうなのか、羊1頭をさばくとはどういうことなのか、日本で育った私は知らなかった。それを小さいころから見ている生徒はわざわざ「命の尊さ」など話さなくても知っているのだ。

モンゴルに来て1年と少し。嫌なことも体験したし、帰国したいと思うことも多々ある。それでも学ぶところはとても多い国だ。残り6カ月、技術を伝えるだけでなく、帰国してから学んだことを生徒に還元できるよう、より意欲的に活動に取り組もうと思う。